

日本の誇る作曲家

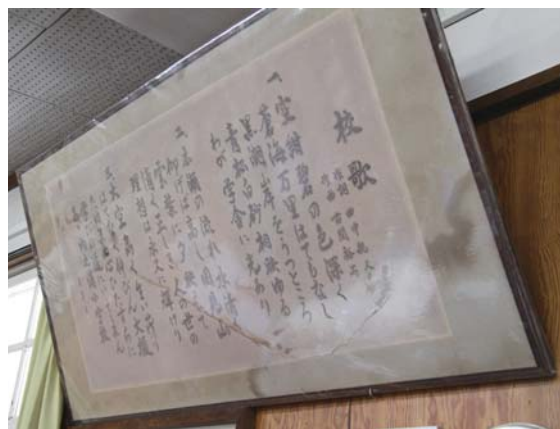
こせき ゆうじ

古関裕而さん

古関裕而（本名：古関勇治）さんは、福島県出身の作曲家です。高校野球大会歌「栄冠は君に輝く」や1964年の東京オリンピックでは選手入場行進曲「オリンピック・マーチ」などをはじめとし、生涯にわたって5,000曲を作曲したとされています。

2020年前期に放送されたNHK連続テレビ小説「エール」の主人公のモデルにもなり、世間の話題を集めました。

その古関裕而さんの作品の一つが内之浦小学校の校歌であり、今でも歌われ続けています。福島県出身の作曲家がなぜ、鹿兒島の学校の校歌を作曲することになったのでしょうか。



内之浦小学校に話を伺ったところ次のことがわかりました。

まず、校歌を作詞した田中親人さんの親戚（田中さんの姉の子）である白濱和夫さんが、古関裕而さんと友人であり、白濱さんを通じて作曲を依頼したこと。

そして、田中親人さんの校歌歌詞に古関裕而さんが譜を載せ、1931年（昭和6年）に校歌が制定されたこと。

その後、1978年、内之浦小学校に勤務していた職員が、校歌に古関裕而さんの名前を見つけ、本人に確認の手紙と楽譜を送っていたこと。

古関さんからは、送られてきた楽譜を見て「間違いなく私の作曲です。」と自らの作品であることを認める手紙が残っています。

手紙には「長い間、よく唄って頂き有難う存じました。どうかこれからも御愛唱下さるよう。」という感謝の言葉も綴られていました。

内之浦小学校の子供達には、偉大な作曲家の校歌であることを誇りに思いながら、これからも歌い続けてほしいと思います。

